



「梅の日」各地で盛大に

「紀州梅の会」がPR活動を展開

紀南地方の行政やJA、梅干しメーカーでつくる「紀州梅の会」は6月、「梅の日」にちなんだPR活動を東京・京都・大阪・本宮などで展開しました。



大田市場では「梅」のトップセールスを実施
(右端の梅娘が吉岡さん)



時代行列「紀州梅道中」
(京都・上賀茂神社で)



五穀豊穡を祈願
(田辺・本宮大社で)

大炭敦史JAわかやま紀南地域本部長は「昨年に続くひょう被害に落胆しましたが、何とか今日を迎えられた。皆皆様のご要望に応えられるよう励みたい」とあいさつしました。

6日には本宮・京都
などでもPR

6日には、田辺市の本宮大社で梅の奉納神事や、京都の下鴨・上賀茂神社で時代行列「紀州梅道中」が行われました。JAわかやま紀南地域本部の特産物PR大使を務める宮本李菜さんも参加し、注目を集めました。

大阪・関西万博では
「万博漬け」イベントも

大阪・関西万博のパビリオン「EARTH MART」では6日、「万博漬け」の公開作業を実施。プロデューサーの小山薫堂さんや「紀州梅の会」の真砂会長、梅干し組合の青年部組織「若梅会」らが参加し、30kgの梅と塩を木樽に入れました。



「万博漬け」の公開作業に参加した「紀州梅の会」の真砂会長

わたしのおもい



紀南地域本部
副本部長
笠松 秀之

結果から生まれる「力」

執筆現在、梅雨の真っ最中。2週間先までの天気予報は、傘マークが頻繁についています。梅産地にとっては、早場地区の手もぎ主体の園地は終了間際ですが、加工梅主体の生産者はこれからが本番です。

合併JAとして初めての青果市場担当者向けの販売セレモニー（梅＋新しょうが）が開催され参加しました。両品目とも季節商材の代名詞であり量販店にとってはなくてはならない品目です。

また、今回のセレモニーは、生産者から生産現場の声を届けたいとの想いから、繁忙期にもかかわらず梅生産者で2名、新しょうがで1名の方々にご足労いただきました。

平素から和歌山県産品の販売にご尽力いただいた

ている御礼と、今後一層の販売協力をお願いを込め、しょうがご飯の試食、梅ジュースの試飲、試食用梅干しとジンジャーエール、また家庭での梅シロップづくり用セットなど豪華バージョンで配布しました。

今回のセレモニーを通じて、改めて青果市場の重要性を感じました。私たち産地は、市場や量販店のまた従来からお取引いただいている方々の期待を裏切ることなく数量維持に努め、また一方で新たな消費拡大への取り組み方が必要です。

取引先が希望している品質と出荷時期（タイミング）を重視した販売戦略を進めることの大切さを改めて痛感しました。結果することから生まれる「力」を追求してまいります。

梅にはクエン酸、しょうがにはジンゲロールという成分が含まれています。疲労回復や食欲増進が期待できますので、しっかりと食べてきびしい夏を乗り切りましょう。

令和7年度

地区懇

《問答集》

Q 土壌分析について、
今までは肥料農薬を
予約している組合員は5点
まで無償であったが、今回
からそれが無くなっている。
農家にとっては合併メリッ
トが出ていない。

A 土壌分析については、
現在使用している試
薬の製造中止により、数年
前から別の試薬に対応した
機械の導入も含め協議を重
ねてきましたが、地域本部
で新しい機械を導入するよ
り、県農の植物バイオセン
ターで分析を行う方が生産
者の負担が軽減されると判
断しました。今回の土壌分
析の価格改定について、ご

JAわかやま紀南地域本部は5月8日から
14日にかけて地区懇談会を開き、25会場で
427人(うち総代57人)の出席をいただきました。

皆さまから寄せられたさまざまなご意見
やご提案につきまして、内容を整理・要約い
たしましたので、一部ではございますが本誌
でご紹介いたします。

理解いただきますようお願い
いたします。

Q 旧JA紀南では、出
荷物に対し安全・安
心をPRし、中芳養に分析
センターを設置している。
合併後もサンプル保管など、
安全・安心が維持できる方
法を進めてほしい。



安全・安心を保証するJAの
紀南食品安全分析センター

A 旧JA紀南分析セン
ターの機械装置は老
朽化が進み、現状を維持す
るのが精一杯となっていま
す。新しい機器を導入する
にも価格の高騰、人材確保・
育成等の観点から非常に厳
しい状況にあります。この
ことから現在、紀南分析セ
ンターの業務について、県
農の植物バイオセンターへ
の業務委託も含めて方向性
を協議しています。今後も
安全・安心システムの維持
に取り組んで参りますので、
ご理解とご協力をお願い致
します。

Q JA合併後、販売・
加工事業については
5年後を目途に統一してい
くということであった。梅
の出荷要領や、梅干しの選
別基準などはどうなるのか。

A 販売事業については、
出荷の形態にはじま
り販売手数料率、集出荷場
や選果場の施設に対する負
担の方法など、旧JA毎に
形態が違うため短期間での
統一は困難と判断していま
す。梅干し選別基準は、「紀
州梅の会」の統一基準が示



メディア対応でアピール

紀南の梅・スモモ

梅・スモモの収穫最盛期にあわせ、紀南
の旬、を届けようと多くのマスメディア
が取材に訪れました。



田辺市下三栖の松本一寿
さんによるスモモ「大石早
生」の収穫(6月5日)



田辺市秋津町的那須都男
さんによる「南高梅」の収穫
(5月30日)

されておりますので、それ
に沿った運用を行って参り
ます。可能な事は早期に地
域の枠組みを超えた一体的
な運営を検討することにな
っています。

Q 新JAの役員任期は
3年となるのか。

A 新JAの役員任期は
3年ですが、合併当
初のみ1年となりますので、
来年6月には総代会で役員
の選出議案が上程されるこ
とになります。地域運営委
員会が役員の選出母体とな
りますので、今後、候補者
の選考方法について協議を
進めていくことになります。

Q 管内人口や組合員の減
少といった要因もある
が、JAが合併するたびに
JAとの距離が遠くなって
いっているように思う。

A 平成15年の合併後、
支所統廃合により39
あった支所が現在14支店と
なり、身近な店舗がなくな
ったことでのご意見だと思
います。県1JA合併後当面
は、既存の支店はそのまま
存続させることになってい
ますが、店舗統廃合は合併
の如何に関わらず、組合員
の利用状況により検討され
ていくことになりますので、
JAへの利用結果をお願い
します。

紀南地域版

8月の
農作業

ミカン

◆仕上げ摘果

仕上げ摘果は品種や出荷時期、肥大状況により進め、極小果や傷果を摘果する。

後期摘果に取り組んでいる園地では、極早生は8月上中旬、早生は8月下旬～9月下旬に、摘果割合で60～70%を目安に行う。

早生・木熟みかん園で樹冠上部全摘果を行った木は、基本的に8月は摘果せず、9月下旬～10月に極大果（果径6・8センチ以上）、極小果（4・8センチ以下）を摘果する。ただし、水分ストレスがかかりやすい園地や木では、早めに摘果を始める。

◆品質向上対策

○マルチ被覆

マルチ被覆は高品質なミカン生産のために必要な作業となる。被覆が困難な園地を除き、積極的に被覆し、品質向上に努めよう。

早生ミカン園で被覆がまだの園地は8月上旬までに被覆する。被覆後の効果を発揮させるため、園地内の確認を行い、不十分な場合は補修や排水対策を行う。

干ばつなどにより、極度の水分ストレスがかかる場合には、かん水や降雨を入れることを検討する。

○フィガロン乳剤の散布

フィガロン乳剤の散布は、着色促進、増糖効果など品質の向上が期待できる。なお、樹勢の弱っている木は使用を控える。

○浮き皮対策

浮き皮対策として水溶性カルシウム剤を使用する場合は、着色期までにセルバインを散布する。

◆かん水

○温州ミカン

糖度を上げるためには土壌を乾燥させ、水分ストレスを与える必要があるが、過度の乾燥は樹勢を低下させ、収量や品質に悪影響を及ぼすため、朝から葉が巻いている、果実が軟らかくなっている場合は早急にかん水する。

極早生は果実肥大や減酸促進のため、収穫1カ月前に酸度が2%以上の場合かん水を行う。早生では8月下旬～9月上旬にクエン酸濃度が急減する時期となるため、状況を見ながらかん水する。なお、一度に多量のかん水は品質低下を招くため1樹当たり20～30リットル程度とする。

「不知火」は8月にクエン酸のピークを迎える。この時期に土壌水分が不足すると減酸が遅れるため、降雨を待つのではなく、晴天が7日以上続けば積極的に10リットル当たり3リットルを目安にかん水を行う。

○中晩柑

◆病害虫防除

温州ミカンと中晩柑で農薬の登録内容が異なる場合があるため、使用前には十分確認し、隣接園への農薬飛散についても注意する。

○黒点病

8月の黒点病防除は後期感染を防ぐために重要である。前回の散布から降水量が200～250ミリに達するか、降雨が無くても20～30日間隔を目安に防除する。収穫期の早い品種は収穫前日数に注意する。

○ミカンハダニ

8月以降の発生は果実にも寄生し、外観品質を損なうため注意する。5～6月の発生時に防除した園地では、同じ薬剤を使用しないようにし、薬剤選択と年間使用回数に注意する。

○チャノキイロアザミウマ

果実への寄生は5月中旬頃から始

まり10月頃まで長期間にわたるため、発生に注意して防除する。

○カメムシ

例年8～9月にかけて果実の被害が大きくなる。特に温州ミカンが被害を受けやすいため、防除する。（中央営農経済センター・羽根巧朗）

落葉果樹

収穫作業も終わり、梅干し作業や翌年に向けた栽培管理作業が始まる。樹体は花芽分化期に入るため、干ばつ対策や早期落葉等起こさないよう基本管理に努める。

◆カイガラムシ類の防除

主にウメシロカイガラムシの第3世代が8月下旬頃から見られる。雌成虫で越冬するため、翌年への対策として防除を行う。

◆かん水

強い乾燥が続いた場合、樹体の光合成能力を低下させ貯蔵養分の蓄えに影響を及ぼすとされている。

かん水のタイミングの把握方法としては、徒長枝の中間部の葉が約60度萎れて下がったのを目印に1樹当たり100リットル程度のかん水を行う。

また、慢性的に乾燥しやすい圃場では、保水性の高い資材の導入や草生栽培により、土壌条件の改善も行うのが望ましい。

◆梅の夏季剪定

先月号でも紹介したが、まだ実施していない場合は8月中に行う。樹勢が強く、徒長枝の発生が多い樹を対象に、樹冠内部の主枝の背面や亜主枝の基部付近から発生している徒長枝を50%程度間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。

◆梅の肥培管理

収穫後、土壌診断を行い、地力が低い園地については10^リあたりなたね粕200^キ、またはケイフン300^キを施用する。

(上秋津支店営農経済・撫養義雄)

水 稲

◆水管理

登熟期の管理は、間断かん水を基本とし、根の活力を維持する。また、用水が確保できる地域ではかけ流しを行う。登熟期間中に早期落水すると、登熟不良による品質の低下を招く上、高温でさらに助長されるので注意する。

◆病害虫防除

○いもち病

多湿で気温が25℃～28度の時に菌が増殖しやすくなる。特に夏場の低温時の日照不足やイネの体内が窒素過多となった場合に発生しやすい。

○カメムシ類

イネ科の雑草で繁殖し、出穂とともに飛来する。水田への飛来を防ぐには畦畔の除草をこまめに行う。カメムシに吸汁されると斑点米となり、等級が下がる原因となる。

○ウンカ類

梅雨前線による南西風によって運ばれ飛来する。西日本では6月中旬～7月中旬に飛来し、年3～4回発生する。成虫の寿命は約1カ月で葉鞘等に産卵し、1週間程度でふ化する。ふ化した幼虫は2週間程度で成虫となる。

(串本支店営農経済・谷本三佐行)

野 菜

◆圃場準備

秋冬期の作付けに向けて、圃場準備作業が主となる。台風や大雨に備えて、排水の良い圃場選択や排水対策、耕運作業等が遅れないように準備する。圃場は乾いた状態で整地し、できる限り高畝にする。

◆土づくり

○レタス

10^リあたり堆肥2^ト、ケイフン400^キ、苦土石灰100^キ～120^キ、レタスベレットを年内採りは200^キ、厳寒期採りは300^キを目安に施用する。どちらの作型もマルチ栽培が好ましく、白黒マルチまたは黒マルチを使用する。

○ブロッコリー

10^リあたり堆肥1^ト、苦土石灰140^キ、BMよりりん60^キ、固形30号プラスチック200^キを目安に施用する。

(串本支店営農経済・谷本三佐行)

花 き

◆露地花き

8月定植の切り花用ハボタン等、高温期に定植する露地花きは、次の点に注意する。

○圃場準備

多雨や干ばつなど圃場に影響を受けやすい時期であるが、耕運や畝立て、排水路の整備など圃場準備は早めに行っておく。

○遮光

定植が高温期であるため、定植前及び、定植後3～4日間、寒冷紗等遮光資材を用い地温を安定させておく。

○定植

苗は老化苗にならないよう適期定植を行う。

○かん水

草丈を十分確保するため、適宜かん水を行う。乾燥に注意し、適度な水分を保つよう土壌水分の管理を行う。

○病害虫防除

●初期防除

高温期のため、害虫の活動が活発となる。特にハボタンはキャベツの

仲間であるため、ヨトウムシ類被害が多い。定植前の薬剤による対策を行っておく。薬剤は営農担当者にご相談ください。

●立枯病

植え付け時に立枯症状がある場合は、リゾレックス水和剤(500～1000倍・5回以内・1㎡当たり3^リ)をかん注する。

(とんだ支店営農経済・前田智也)

花 木

◆病害虫防除

春から夏にかけて、病害虫の発生が多い時期となるので、引き続き注意と管理を行う。

害虫等の食害被害にあった枝葉や、下垂枝等の不要な枝を剪定で除去し、日当たりと風通しを良くする。

主な害虫は葉裏に多くいるので、薬剤散布する際には葉裏に薬液がかかるよう丁寧に散布する。

害虫類は発生初期の防除、病害は、拡大する前の予防散布を行う。

(とんだ支店営農経済・前田智也)

※みかん、中晩柑、梅、スモモ、水稲の防除薬剤や施肥肥料は、旧JA紀南令和7年栽培暦を確認下さい。



AWと連携し今年も

周参見小がサツマイモ植え付け

すさみ支店は6月6日、すさみ町立周参見小学校のサツマイモ植え付け体験を支援しました。

白浜町のレジャー施設「アドベンチャーワールド」と連携している取り組みで、今回で3回目。1年生12人と2年生13人が体験し、組合員の抜田佐代さんから教わりながら、JA職員やアドベンチャーワールド職員とともに、「紅はるか」の苗300本を植え付けました。

収穫後は児童らが調理実習で実食



アドベンチャーワールドと連携し行った児童のサツマイモ植え付け体験

子どもたちの農業体験

5月～6月中、紀南地域本部の管内で子どもたちによる農業体験が行われました。体験の様様について写真特集で紹介します。



- ①田辺市新庄町では、新庄小学校5年生23人とわんぱく保育所の園児12人が6月4日、梅の収穫を体験しました。
- ②田辺市立衣笠中学校の1年生88人が6月5日、クラス毎に2～4限目を活用して、梅の収穫や選果を体験しました。
- ③田辺市の中芳養地区では、中芳養小学校の3年生12人と中芳養幼稚園の園児7人が6月18日、梅の収穫と漬け込みを体験しました。
- ④すさみ町立周参見小学校の4年生16人が5月23日、JA職員らに教わりながら田植えを体験しました。
- ⑤田辺市立三栖幼稚園の園児8人が6月13日、梅の収穫を体験しました。
- ⑥田辺市中辺路町では、中辺路小学校の児童7人とうつほの杜学園小学校の児童14人が6月4日、田植えを体験しました。
- ⑦田辺市立三栖小学校の3年生51人が6月11日、JA職員から梅の歴史や栽培等について学びました。

「梅もぎツアー」受入れ

JA職員による梅加工講習も

紀南地域本部はグリーンツーリズムの一環で行っている梅もぎ体験ツアーを6月9日から15日までの間、バス14台、約423人受け入れました。

7年産は降ひょう被害の影響から園地には入らず、出荷されコンテナ

し、残りはアドベンチャーワールドに提供予定です。児童による動物へのエサやり体験も計画しており、「秋の収穫が楽しみ」「早く動物に食べさせてあげたい」などの声が聞かれました。

に入った梅をJA中央営農経済センターで袋に詰めてもらう形で実施。14日にはJAの那須麻綾販売担当を講師に梅の加工講習会も実施しました。

兵庫県から訪れた女性らは「梅もぎを体験できなかったのは残念ですが、毎年楽しんでる。梅しごとを、今年も本場の南高梅で楽しみたいです」と話しました。



梅の加工講習を行うJA職員(14日、中央営農経済センターで)

人事発令のお知らせ

	氏 名	部 署
依頼退職 (6/30付)	☑ 松下 仁司	加工部 営業課
	☑ 岡崎 誠	加工部 営業課
	☑ 高垣 佳栄	田辺支店
人事異動 (6/1付)	☑ 丸山 智則	新 栗栖川出張所
		旧 富田川営農経済センター

ふれあい広場



すくすく
Memory

田辺市下三栖

あさやま こうき
浅山 昂輝くん(11歳)

来年からは中学生に！ 憧れは大谷翔平選手

小学6年生の昂輝くん、現在は「三栖少年野球クラブ」でキャプテンも務めています。お父さんが野球をしていたこともあり、小学2年生のときに1学年上の友だちと一緒に入部しました。

今年から新チームとなり、公式戦で憧れていたピッチャーとして出場しました。完封勝利でき、この経験が大きな自信につながったそうです。

中学生になっても活躍できるよう頑張って、いつか憧れの大谷翔平選手のようなプロ野球選手になる日を夢見ています。

ご家族から一言

夢に向かって前向きに努力する姿をいつも見守っています！

生産者
紹介

今月の
きなん産地人

田辺市新庄町

かしやま かずあき
榎山 和昭さん

スモモのジョイント栽培も



就農して約10年。現在は「古城」をメインに約1.5畝で梅を、「大石早生」をメインに約0.5畝でスモモを、家族4人で栽培しています。

梅については、メインとしている「古城」の栽培面積が産地全体で減少している状況なので、なるべく生産面積を維持して産地の盛り上げに寄与できるよう頑張りたいです。

スモモについては人工授粉に力を入れつつ、「早期成園化と作業効率の向上に」とJAのすすめで始めたジョイント栽培にも挑戦しています。

2歳と4歳の子どものがいるので、子どもたちの成長を見守るのが今の楽しみ。子どもたちの意思に任せますが、もし「農業をしたい」と言ってくれたら、うれしいですね。

ENJOY

セカンド
ライフ

上富田町生馬

きのした けんじ
木下 兼二さん



日本料理店から蕎麦屋に転身！ すだち蕎麦など季節限定メニューも

手打ち蕎麦「おおみや」を開店し、今年でちょうど10年を迎えました。開店前は県内外の日本料理店で職人として勤めていましたが、大阪の知り合いに蕎麦屋の手伝いを頼まれ、それから15年間修行したのち、父親が亡くなったのを機に地元上富田に帰省。蕎麦屋を開店しました。

これから夏にむけて蕎麦がおいしい季節になります。「すだち蕎麦」や「茄子蕎麦」など季節限定メニューもご用意していますので、お昼のみの営業になりますが、ぜひお気軽にご来店ください。

地域本部の

JA職員です



新庄支店 金融窓口

かわい あやか
川井 彩香さん



子どもたちとするレトロゲームに今ハマっています。自分が子どものときにしていたゲームを自分の子どもとできることに幸せを感じます。

新万支店 複合外務

うちだ あきひと
内田 彰人さん

1歳の娘を抱いて散歩するのが休日の楽しみです。娘の誕生を伝えたと、組合員の皆さんが自分事のように喜んでくれたことは今も忘れられません。

